

「うるさ型」から「実務型」に変質する厚労族

伊吹・塩崎・鴨下3氏の引退と田村・加藤両氏の台頭

神戸市議会議員・元国会議員政策担当秘書 岡田裕二

「押されている」とは何だっ！
ぶざけるなっ！ 訂正しろっ！」
04年秋の話だ。03年の待機児童
数が過去最大にまで膨れ上がった
ことを受け、永田町は保育施設の
規制緩和論議に揺れていた。毎週
木曜日、自民党本部8階「リバテ
イ」会議室で開かれる平成研究会
（当時の橋本派、現竹下派）総会で、
最前列に座る橋本龍太郎氏（元首
相）はなおも収まりがつかず、「訂
正しろ！ 取り消せっ！」と怒鳴
り続けた。

小泉純一郎内閣の改革路線が、
参院選の敗北により停滞の兆しを
見せ始めていた。矛先を向けられ、



ヘビースモーカーでもあった橋本龍太郎氏

困惑の表情を浮かべるのは、マイ
クの前に立つ片山虎之助・自民党
参院幹事長（当時）。党情報告の
なかで、保育施設の規制緩和につ
いて「皆さん、いろいろご支援い
ただいている団体等の関係があり、
そこかしこからキツク押されてい
る。調整する私としても大変苦労
している」と発言。要は業界団体
から圧力を受けて辛いというのだ。
片山氏はまだ発言の途中であつ
たが、激しく反駁する橋本氏に対
し「別に深い意味で言った発言で
はない」「あなたのことを言ってい
るわけではない」と応答。しかし
あまりにいつまでも怒鳴り続ける
ので片山氏は「はい、はい、じゃ
あ訂正します」と謝罪。派閥総会
後にも、橋本氏は片山氏を呼びつ
け、しつこく絡んでいた。

当時、保育園設置にはキッチン
併設が必須であった。その規制を
緩和せよとの主張に対し、厚労族
のドンである橋本氏は「幼い子ど

もたちにファーストフードを食べ
させるのか！」と猛反発していた。

足跡を残した塩崎氏

メンバーが1000人にまで達し、
一時は党内最大勢力を誇った平成
研。しかし小泉首相のメディア戦
略で、同じ党内にしながら改革の
「抵抗勢力」とされ、郵政民営化に
伴う党の分裂に際してメンバーは
激減。その後の09年の政権交代選
挙で壊滅状態に陥り、現在では最
盛期の約半数にまで縮小している。
「古き良き自民党」を体現した、族
議員の巣窟たる平成研のイメージ
が、いまの時代に合わなかったの
だろうか。平成研に議員秘書とし
て育ててもらった筆者としては寂
寥の感もある。

橋本氏は元厚相の橋本龍伍氏を
父に持ち、当選3回で厚生政務次
官、当選5回で厚相として初入閣。
「親子2代の厚相」としてマスコミ

にも取り上げられた、筋金入りの
厚労族だった。

その橋本氏と同年生生まれの厚
労族議員が、6月に今期限りでの
政界引退を表明した伊吹文明元衆
院議長だ。「イブキング」と渾名さ
れ、党本部のどの勉強会でも、必
ずひな壇に座って「ご説法」をぶ
つた。自民党の下野時代も、役所
に対し「なぜ局長が説明に來ない
のか！」と党本部で怒鳴っていた。
多くの自民党議員が劣等感に苛ま
れ、卑屈に振舞っていたなかで、伊
吹氏の頑固さはまったく衰えず、そ
の堂々たる振る舞いは傑出してい
た。09年の政権交代選挙で、丹羽
雄哉元厚相をはじめ、多くの厚労
族が落選の憂き目に遭った後、伊
吹氏は「キングオブ厚労族」とし
て長きにわたり君臨した。

頑固と言えば、同様に政界引退
を表明した塩崎恭久元厚労相も負
けていない。98年の金融国会で根
本匠（N）、安倍晋三（A）、石原

伸晃（I）らとタッグを組み「N
A I Sの会」を結成。11年の福島
原発事故では国会原発事故調査委
員会創設に向け奔走するなど、金
融、ガバナンス、そして危機管理
の専門家として党内に独自の橋頭
堡を築いた。

瓢箪から駒とでも言うべきか、14
年に突然、厚労相の座が回ってき
たため、日本医師会の横倉義武会
長（当時）から「塩崎氏は）医療
に縁がないという意見もある」と
言われた。しかし、3年にわたつ
た厚労相の任期中に、「医務技監」
ポストや「保健医療2035」な
ど、さまざまな足跡を残した。受
動喫煙対策で最後まで折れない強
硬姿勢を貫き、党内のたばこ族議
員と対立して失脚した後、本来
のライフワークである行政改革、そ
して党改革に専念するともに、個
人的に強い関心を寄せていた児童
虐待防止や社会的養護・児童養護
施設の拡充に務めた。筆者は塩崎
氏の下で政策秘書を4年弱務めた
ので、エピソードを書き出したら
キリがない。

医師出身の鴨下一郎氏も8月に
入り、政界引退を表明。鴨下氏は

石破派（水月会）の事務総長。石
破派は後藤田正純氏、平将明氏、齋
藤健氏など、反骨精神旺盛な「う
るさ型」の集まりで、かつての平
成研を彷彿させる。実際、鴨下氏
の引退により、派内で石破氏に次
ぐベテラン議員となる田村憲久氏
は、もともと平成研の出身だ。自
民党内の主流が、12年の政権復帰
後に大量増殖した「魔の3回生」
へと移り、安倍一強の中で大勢順
応型の風潮が強くなった。政権与
党の方針に、横やりを入れ水を差
す、往年の族議員スタイルが貫き
づらくなった。東京という厳しい
選挙区事情にもかかわらず、厚労
ムラで独特な地歩を固めていた鴨
下氏の退場は、その傾向に拍車を
かける。

「とにかく反対」は通用せず

今後、野田毅氏、尾辻秀久氏、鈴
木俊一氏、衛藤晟一氏など、70歳
を超えた厚労族の長老たちが次々
と引退していくことになる。19年
の参院選で木村義雄元厚労副大臣
が落選した際にも少し感じたが、い
わゆる「うるさ型」の厚労族が少

しずつ姿を消し、田村氏、加藤勝
信氏、後藤茂之氏といったスマー
トな「実務型」が、じわりと厚労
族のすそ野を固めつつある。

かつて「運輸族の統率者」影の
運輸相とも言われた故加藤六月
氏は、橋本氏と同じく岡山2区の
選出で、選挙のたびに「六龍戦争」
とも言われる骨肉の争いを繰り広
げた。86年の第3次中曽根内閣で
ともに入閣を果たすが、運輸相に
入閣したのは何と橋本氏。国鉄分
割・民営化に最後まで抵抗した運
輸族のドン・加藤氏を尻目に、橋
本氏は中曽根行革路線を着実に実
行し、担当閣僚として国鉄分割・
民営化の陣頭指揮をとった。

加藤氏の後継となった加藤勝信
氏は2度の落選を経た後03年に比
例単独当選。当初岡山に空いてい
る選挙区が少なく、民主党からの
出馬も模索していた加藤勝信氏に
対し、自民党入りを強く勧め、比
例単独当選の段取りをつけたのは、
ほかならぬ橋本氏だった。20年7
月に橋本氏の次男の橋本岳厚労副
大臣（当時）が、自見英子厚労政
務官（当時）との不倫疑惑を報じ
られた際、厚労相として厳重注意

した加藤勝信氏の心中はいかばか
りだったろうか。

昔は党の部会で「そんなの絶対
に認めんぞ」選挙で負けたら責任
が取れるのか」と怒鳴って灰皿を
投げてみればよかつたが、いま
や右肩下がりの財政事情の状況下
で、「とにかく反対」が通用しなく
なった。自民党一党優位体制が終
わり、公明や維新など、政党間調
整が重きをなしつつあるいまの時
代、御簾の内にある「ボス懇」な
ど時代錯誤なのかもしれない。

塩崎厚労相も日本版メイヨーク
リニック、日本版NIHを求める
安倍晋三首相（当時）の期待を背
負って誕生した。及第点だったか
はともかく、厚労族がハッターリと
予算至上主義から、実務型の経済
成長重視へ変質する転換期に、咲
いた徒花が「保健医療2035」
であったのかもしれない。

族議員を台頭させるのも、潰す
のも、業界関係者次第だ。医薬業
界の将来を築くには、どのような
族議員が望ましいのか、しっかりと
とした視点を持つていなければな
らない。族議員が業界の守護神で
あることに変わりはないのだから。